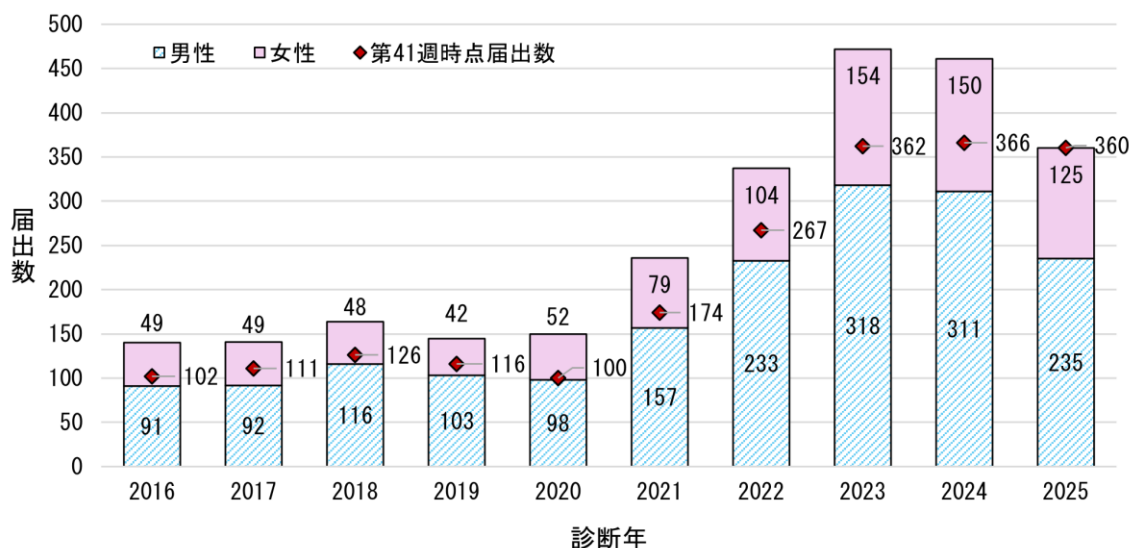


【今週の注目疾患】

《梅毒》

2025 年第 41 週に県内医療機関から 4 例の届出があり、本年の累計は 360 例となった。現行感染症サーベイランスが開始された 1999 年以降で最多の 2023 年と同水準で推移しており、引き続き発生動向に注意が必要である（図 1）。

図 1：2016年から2025年第41週までの千葉県の梅毒診断年別届出数



2025 年に届出のあった 360 例の概要は以下のとおり。

性別では、男性 235 例（65%）、女性 125 例（35%）であった。

年代別では、男性 235 例のうち 40 代が 56 例（24%）と最も多く、次いで 50 代 53 例（23%）、20 代及び 30 代各 39 例（各 17%）と続いた。女性 125 例では 20 代が 61 例（49%）と最も多く、次いで 30 代 20 例（16%）、40 代 19 例（15%）であった。

病型別では、男性 235 例のうち早期顕症梅毒第Ⅰ期（以下、第Ⅰ期）が 122 例（52%）と最も多く、次いで早期顕症梅毒第Ⅱ期（以下、第Ⅱ期）56 例（24%）、無症状病原体保有者 49 例（21%）であった。女性 125 例では第Ⅱ期が 58 例（46%）と最も多く、次いで無症状病原体保有者 41 例（33%）、第Ⅰ期 23 例（18%）であった（図 2）。

なお、妊婦症例は 14 例あり、先天梅毒は 1 例届出されていた。

図2a：2025年の梅毒年代別病型別届出数（男性n=235）

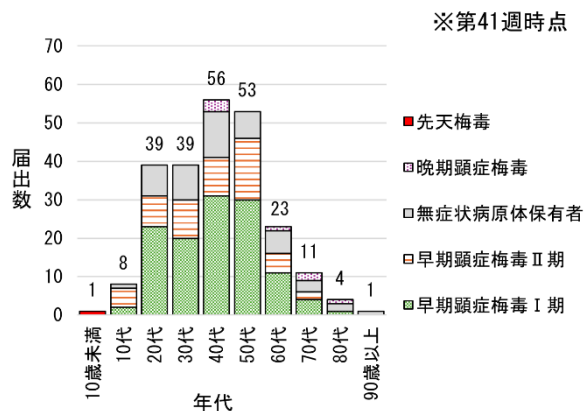
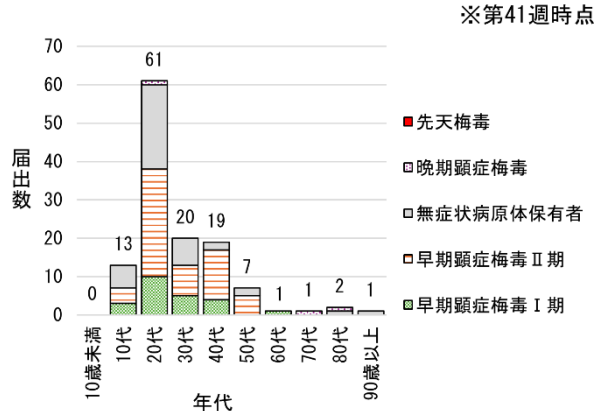


図2b：2025年の梅毒年代別病型別届出数（女性n=125）



梅毒は梅毒トレポネーマ（*Treponema pallidum* subspecies *pallidum*）を病原体とする細菌感染症である。菌を排出している感染者との性器や肛門、口腔などの粘膜の接触を伴う性行為により感染する。予防方法は、感染者との性行為を避けることが基本となるが、病変の存在に気づかない場合もあるため、コンドームを適切に使用することが感染リスクの低減につながる。不特定多数の人との性的接触は感染リスクを高めることから、回避することが望ましい。また、症状が消えても感染力が残っていること、治癒しても再度感染する可能性があることに注意が必要である^{1,2,3)}。

典型的な症例では、感染して 2 から 4 週間後、梅毒トレポネーマの侵入箇所にしこりや潰瘍ができたり、鼠径部のリンパ節が腫れたりすることもあるが、いずれも痛みを伴わないことが多い（第Ⅰ期）。その後、数週間から数カ月間が経過すると、皮膚や粘膜に発疹を生じたり、肝臓、腎臓など全身の臓器に様々な症状を呈したりすることがある（第Ⅱ期）。第Ⅰ期、第Ⅱ期のいずれも、症状は自然に軽快することが多いが、梅毒が治ったわけではない。治療せず放置した場合、感染から数年後に、大動脈瘤などが生じる心血管梅毒や歩行障害などを伴う脊髄瘍（せきずいろう）などの晩期顕症梅毒を引き起こすことがある。なお、感染が脳や脊髄に及んだ場合を神経梅毒と呼び、どの病期でも起こりうる^{1,2,3)}。

妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通じて胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こす可能性がある。先天梅毒は、生後まもなく皮膚病変や肝脾腫などを認める早期先天梅毒と、生後約 2 年以降に目や耳に症状を呈する晩期先天梅毒がある。先天梅毒の予防では、妊婦健診におけるスクリーニング検査、早期検査、早期治療が重要である。感染した妊婦への適切な抗菌薬治療によって、母子感染するリスクを下げることができる^{1,4)}。

千葉県では無料・匿名の検査を実施しています

梅毒は早期に適切な治療を受けることで完治可能な疾患です。早期発見・早期治療、そして再感染を予防するためにも、パートナーとともに検査を受けることが推奨されます。

県では保健所等において無料・匿名の検査を実施しています。感染が気になる方や不安なことがある場合には、県ホームページ等でスケジュールをご確認の上、ぜひご利用ください^{2,5)}。

■参考・引用

- 1) 国立健康危機管理研究機構：梅毒
<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/syphilis/index.html>
- 2) 厚生労働省：梅毒に関する Q&A
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryousyphilis_qa.html
- 3) 厚生労働省：梅毒
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryousyphilis.html
- 4) 国立健康危機管理研究機構：IASR 44(12), 2023【特集】梅毒 2023 年現在
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/44/526/article/020/index.html>
- 5) 千葉県：千葉県内のエイズ等相談・検査
<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/aids/soudan.html>